

市公連だより

公民館紹介

先輩の想いととも

別府公民館長

新井 守



別府公民館全景

別府公民館は、別府沼公園と道一本で隣り合う所にあります。旧別府公民館は昭和42年3月に、別府中学校の北東の県道側に設立されました。現公民館は、平成16年4月に新設されました。多目的ホール、会議室、和室、創作室、軽体育室、事務室があり、50台駐車可能な舗装の駐車場と80台駐車可能な未舗装の駐車場があります。

敷地は、明治20年頃地元の木村家が小学校用地にと、当時の別府村に寄付され、別府小学校として使われていました。建物は、平成16年4月に地元東別府出身の東京歯科大学名誉教授 坂田三弥先生によって建設されたものです。私たち職員は、その想いに応えられるように、生涯学習講座、主催行事、地域自治会連合会との共催事業に取り組んでいます。生涯学習講座「あいの泉教室」は、一年を通して10回の講座を計画しています。人権学習、音楽鑑賞、歴史講座、健康講座、落語鑑賞、館外研修等となっています。例年は80人を定員としています。

令和4年度は40名で開催しています。

現在力を入れて取り組んでいることは、花いっぱい公民館作りです。昨年は県道に面した花壇にヒマワリの花を植えて、暑い夏を力強く過ごしました。今年の春は、五百

第33号
発行 熊谷市公民館
局長 荻野 功
事務 熊谷市中央公民館
電話 048-523-0895

個のチューリップと、それを囲むパンジーの花々が来館者の心を和ませました。



花壇の様子

今はコロナ禍で利用者は減っていますが、令和元年度は、四万三千人の利用者がありました。これからも、地域のみなさんに愛され、活用される公民館をめざして、がんばってまいります。

地域の人々の更なる

心のつながりを目指して

小島公民館長

赤石嘉孝

小島地区は熊谷市内で利根川の北側にある市内唯一の地

域で、群馬県太田市に接していません。人口が四百人に満たない地区です。昔から人々の生活は利根川と共にあり、もたらした肥沃な地は大和芋等野菜の産地となっています。



講座では五十年来の歴史を誇る朝顔展や菊の栽培講習会があります。朝顔展では春に種の配布希望を取り、七月末に丹精を込めた作品を持ち寄り、皆で鑑賞し合います。菊は講習会で学び、三ヶ月間我が子の様に慈み育てます。その愛情に相まって秋には見事な三本立ての菊鉢に仕上がります。会場の公民館を豪華絢爛たる菊が埋め尽くす様は見事の一言です。

その他グラウンドゴルフやソフトバレーボール大会を実施しています。特にGゴルフでは、小島独自のルールを設定し、個人で競い合い、八十八歳以上にはハンデを付けています。昨年の大会では一位と四位が八十歳以上となり、高



グラウンドゴルフ大会

齢者も一緒に楽しめる大会になりました。

旧盆の納涼大会は、小島に住む人だけでなく、小島の地を離れた家族が帰郷し、旧友達との再会を楽しみ、小島を愛する心を再認識する場でもあります。十月開催のレクフェスでは、若いも若きも楽しみながら競い合う種目を工夫しています。

今年度は、新たに歴史講座を開講し地域の魅力を再確認する場としました。その他、切り絵や絵手紙、ステンドグラス講座を新設しました。

地域在住者の平均年齢が五八、七歳の現状に鑑み、「ウィズコロナ」の今、感染症対策を徹底しながら、地域の人々が共に過ごせる時間を作り「心のつながり」を再確認できる公民館活動を創造していきたいと思えます。

《「暑くない」そんな人ほど 熱中症》

《エアコンを上手に使い 健康管理》

ウィズコロナへの舵

熊谷市公民館連合会会長 荻野 俊行



会長に就任いたしました荻野です。五月十三日の総会において退任されました山川前会長様におかれましては、令和元年から三年間の長きにわたり本会の組織活性化にご尽力いただきました。大先輩の後の就任は、何とも不安だらけで各館長・関係の皆様のご協力をいただきながら努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和二年二月辺りから猛威をふるい始めた新型コロナウイルスによって、公民館事業は中止や延期、あるいは縮小開催を余儀なくされました。このことよって協議の場面や健康保持・増進、地域コミュニティ等が多くの制限を受けました。今のところ第六波は終末の様相を呈しており、制限も緩和され活動が戻ってきているように思えますが、如何せん減少の原因がはつきりしておりません。この状況の中では、感染防止対策を講じ「できることをやっていく」ことが、失われた場や時を取り戻すことにつながるのだと思います。

六月五日（日）秦公民館では、久しぶりにグラウンドゴルフ大会を実施しました。感染防止の観点から、マスク着用、用具・手指の消毒を行い競技しました。また、代表者による開・閉式とし、挨拶・競技上の注意等は木陰で憩う参加者に向けて行いました。公民館運営協議会についても、参加者は椅子席で密状況を緩和して協議を行いました。感染者数の減少により事業の実

施はウィズコロナ、こちらに舵を切りました。

今後も、ウイルスとの共存は続くと思われれますが、地域の声を耳を傾け、それぞれの館の積極的運営をお願い申し上げ、挨拶いたします。

地域づくりの拠点として

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃



公民館連合会のさらなる発展と活動の推進が図られるものと確信しております。

また、昨年度で退任された山川幸男前会長さんには、本市の社会教育の推進に多大なる御尽力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が確認され三年が経過しましたが、各公民館では、「つどろ」「まなぶ」「むすぶ」の公民館の役割を十分認識され、制約の多い中で公民館事業を継続していただいておりますことに深く感謝を申し上げます。

本来、人が集い、学ぶ中で、地域の人や団体のつながりや連携を強固にしていく機能を有している公民館において、これまでの活動の継続と新たな発想の展開が、一人一人の生きがいの発見、ひいては地域活力の醸成につながるものと考えます。

熊谷市公民館連合会の皆様には、日頃から公民館活動に御尽力いただき誠にありがとうございます。

各公民館では、多様化する地域住民のニーズや時代の要請にも配慮しながらの活動等、様々な御努力を重ねられているものと存じます。

令和四年度は、新たに荻野俊行会長さんが就任されました。新会長の御指導のもと、

ワクチン接種の四回目が開始される等感染予防対策が促進され、行動制限が緩和される状況になった今、幅広い世代が集い、交流できる公民館は「地域づくりの拠点」施設として、その重要性は一層増しています。

令和四年度は、新たに荻野俊行会長さんが就任されました。新会長の御指導のもと、

本来、人が集い、学ぶ中で、地域の人や団体のつながりや連携を強固にしていく機能を有している公民館において、これまでの活動の継続と新たな発想の展開が、一人一人の生きがいの発見、ひいては地域活力の醸成につながるものと考えます。

公民館連合会の皆様には、日頃から公民館活動に御尽力いただき誠にありがとうございます。

各公民館では、多様化する地域住民のニーズや時代の要請にも配慮しながらの活動等、様々な御努力を重ねられているものと存じます。

新任館長あいさつ

大里公民館長

山岸 一夫



この四月に公民館長を任命されました。

コロナの勢いは若干ではありますが減少傾向に向かっております。

施設が集団接種会場となり、利用が制限される中、ぶらりウォーキング・ノルディックウォーキングなどの館外活動に力を入れ、コロナに負けず地域の皆さまと免疫を高めて明るく健康的な公民館づくりを目指していきます。幅広い世代の人にも参加できるよう、微力ではありますが職員一同邁進してまいります。今後とも皆様方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

江南公民館長

前川美佐保



四月より江南公民館長として就任致しました前川です。

昨年度まで嘱託職員として勤務し、なれ親しんだ公民館ではありますが、館長としての重責に緊陣一番の思いです。

地域公民館に求められることは、人と人とのふれあいの場、世代にまたがる生涯学習の場等々、その任務は大なるものがあります。

コロナ禍により利用制限のある活動を展開しておりますが、地域の皆様が安心して生涯学習を楽しむ場づくりを志し、尽力してまいります。

江南公民館の職員は明るい声のあいさつと笑顔の対応を心掛けておりますので、江南公民館にお出での際にはお気軽にお声がけください。

江南地域の文化の向上と生涯学習の推進に資して参ります。

奈良公民館長

森田 和弥



すので、ご指導ご教示のほど宜しくお願いいたします。

四月一日付で奈良公民館長を就任いたしました森田和弥と申します。

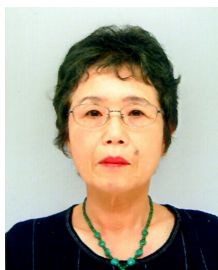
私は、一昨年の定年退職後一年間公民館主事を経験させていただき、少しでも地域の為に役立てればと思いい、公民館長を引受けました。

公民館は、地域住民の生涯学習・地域コミュニティーの場です。地域の方々が気軽に利用でき、交流を深め、楽しく学習できるような講座を実施し、公民館活動の充実に尽力してまいります。

歴代の館長をはじめ、多くの地域の方々の協力により築いてきた善き伝統を受け継ぎ公民館活動が生涯学習の拠点として、さらに発展するように努めてまいります。

大幡公民館長

岡 幸江



また、地域文化の向上が図れるように心がけますので、皆様の御指導をお願い申し上げます。

この度大幡公民館長に就任致しました岡でございます。

当館では現在一人の自主学習グループが熱心に、楽しく活動しています。ウイズコロナの考え方で、「さわやか学級」「まなびや教室」を主催しています。更に、二年間コロナで開催出来なかった三代交流グラウンド・ゴルフ大会や作品展（小・中学校生徒の作品も展示）等を開催していく予定です。

今後の課題として、公民館活動参加者が年々高齢化している事、次世代の方々の利用者が少ない事などが挙げられます。また、車椅子を利用し

ての来館者への対応（ホールの入口の狭さと段差）にも悩まされています。

課題解決に向けて、地域の皆様方のお力を頂きながら一緒に考えて行きたいと思っています。

男沼公民館長

星野 初雄



令和四年四月一日付けで男沼公民館長に就任した星野初雄です。宜しくお願いいたします。

当館では他館同様、新型コロナウイルス感染症の流行に翻弄され続け、行事・講座の相次ぐ中止に悩み続けた二年間でした。今年度は、ウイズコロナの下、感染症対策を徹底して行事・講座を進めてまいります。

このコロナ禍による行動制限、すなわち我々にとつての行事の中止により、地域の方々が触れ合う機会が極端に減

《熱中症 未然に防ぐ》

《ヒンヤリハット》

少してしまいました。人々の心に悪しき影響が及び寄っています。私は微力ながら、公民館事業を進めることで地域の人達の心の繋がり作りに取り組み、コロナに負けない男沼地区にしたいと考えています。誠心誠意努力致しますのでご支援・ご協力お願いいたします。

小島公民館長

赤石 嘉孝



令和四年四月一日付けで小島公民館長に就任した赤石嘉孝です。宜しくお願いいたします。

地区は熊谷市の北西部に位置し、利根川の北岸にあって群馬県太田市に接しています。人口が四百人に満たない小さな地区ですが、自治会や各種団体が非常に協力的で行事や講座には多くの参加者があります。

《 炎天下 まちなかオアシス ひと休み 》

小島地区の結束の強さは夏の納涼祭や秋のレクレーションプエスタへの幅広い年齢層からの参加者に現れています。講座でも五十年来の歴史を誇る朝顔展や菊づくり教室を始め、年2回のGゴルフ、ソフトラバー大会では八十・九十代の参加者が活躍しています。小島地区の人々の心の絆を大切にしてきた先達たちの心を受け継いでいきます。ご支援・ご協力をお願いします。

中央公民館長

根岸 洋子



この度、中央公民館長に就任いたしました。

歴史ある中央公民館長に名を連ねることは大変名誉なこと、職責の重さに身の引き締まる思いです。

生涯学習の推進と人づくり地域づくりの拠点施設として、中央公民館に脈々と受け継がれてきた、社会情勢の変化への迅速な適応力と多様化する学習ニーズの確かな把握の重要性を旨に、地域に根ざした魅力ある公民館運営を図っていく所存です。

新型コロナウイルス感染症による利用減少等の課題には、若い世代にも公民館に興味を持つていただける柔軟な事業展開と発信力の強化で対応し、市民生活に彩りと活力をもたらす公民館の機能を拡充するよう、職員一丸となって努力してまいります。皆様には御指導御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



退任館長あいさつ

前熊谷市市公連会長

前奈良公民館長

山川 幸男

平成20年5月奈良公民館長を拝命し、これからは地域において多くの方々との触れ合いを求めたいと思っていた。地域団体の総会に招かれ総会終了後には懇親会があり、より一層の懇親を深められ、更に次席がある時代であった。その後、10年以上経てコロナ感染症問題の真つただ中、地域団体からの総会は書面による総会に様変わりしている。地域とのふれあいの機会が極めて少なくなり、人と人とが逢えないなんて平穏な社会には考えにくいことになった。

を、心よりありがたくうれしく感謝でいっぱいです。

前大里公民館長

山岸 保治

大里公民館長として、就任以来10年間勤めさせて頂きました。

「人が集い、学び、つながる活動」を目的とした公民館ですが、新型コロナウイルスの出現によりそれが困難な状況に追い込まれました。今も尚、活動場所であります大里コミュニティセンターは、ワクチン接種の会場として、施設利用制限が継続されています。感染者は減少傾向にありますが、一日も早い終息を願っています。

毎年実施してきました敬老会や文化祭では地域の皆様の協力を得て成功させることが出来ました。また、学習グループの活動は、活発に行われておりましたが、コロナ禍のため、長期の活動が休止となり、会員数が減少し、解散するグループも見受けられます。終わりに、市公連及び各公民館の益々の発展を祈念し、退任のあいさつとします。

前江南公民館長

岡田 恒雄

熊谷の夏らしい日々が続いておりますが、暑さに負けず頑張っていると思います。

二年間という短い期間ではありましたが、市公連の方々をはじめ、多くの公民館関係者の皆様にご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。

豊かな自然環境に恵まれた江南公民館は人々がふれあひ、学びの場として幼児から高齢者までが楽しく利用できるように、職員は『利用者を笑顔で迎え、笑顔で帰って頂く』ことを合言葉に事業を展開しております。

しかし、予期しない新型コロナウイルス感染症の蔓延により、多くの事業が縮小や中止となったことは心残りですが、皆様のご協力により公民館運営も大過なく推進することができ、誠に有難うございました。

結びに、新型コロナウイルス感染症の終息を願い、市公連及び公民館関係者の皆様に感謝

を申し上げ、併せてご健勝とご活躍を祈念し、退任の挨拶と致します。

前大幡公民館長

清水 裕史

この度、三月末をもって大幡公民館長の職を退任いたしました。在任中は地域の皆様には公民館活動にご理解ご協力をいただき、有難うございました。任期の後半は新型コロナウイルスの影響により公民館活動にも様々な制約が加わり、思うような事業が行えなかったことが心残りでありません。

コロナウイルス感染が一日も早く収束し、以前のように地域の方々が大勢集まる敬老会や運動会等のイベントが再び実施できることを願っております。

新しい生活様式のもと、地域の生涯学習拠点として、大幡公民館が益々発展することをお祈りし、退任の挨拶いたします。

前男沼公民館長

原口 香

この度、男沼公民館長を退任することになりました。二年間という短期間ではありましたが、地域の皆様を始め、職員の方や担当主事さんには大変お世話になり、感謝申し上げます。

公民館活動は、地域の人達が気軽に集い、学べる場として、利用されてきましたが、就任当初から、新型コロナウイルス感染症拡大防止による、自粛や中止に伴い、程ほどの行事が実行できない状況に直面し、人が集うことや出会うことの大切さを改めて実感させられました。

この様な状況の中でも、行事に参加された方には、特段のご協力を頂き、令和三年度では、約七割方実施する事ができました。まだまだ感染危機は続くと思われまますので、油断せず危機意識の継続をお願いいたします。

最後になりますがコロナ感染が一日も早く終息する事と、市公連並びに各公民館の益々

のご発展を祈念し退任の挨拶とさせていただきます。

前小島公民館長

小林 義一

新型コロナウイルス禍の中、中止或いは延期せざるを得ない事業がある中、実施できた事業に多くの方の参加、協力をいただき厚くお礼申し上げます。

小島地区では公民館事業は地域のふれあひの一助として活動してまいりました。

そうした中、小中学校が休校している今、小中学生とのふれあひ事業としての世代間交流事業としての納涼祭、スポーツフェスティバルがコロナ禍ということでも実施できなかったことは誠に残念でした。世代を超えて参加できる魅力ある事業の企画が公民館事業として必要ではないかと切に感じております。

今学校の統廃合に伴い公民館組織の変遷が考えられますが地域のふれあひを考慮しますと、現状の組織で進めていただきたいと思います。

結びに、小島地域の皆様、公民館関係者の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。あいさついたします。

前中央公民館長

橋本 裕美

熊谷市中央公民館長として、定年退職前の二年間お世話になりました。

私にとつてこの二年間は、それまで知っていた「公民館」とは異なり、常にコロナ対策を考えた上での判断に迫られ、それでも公民館にできることを模索し続けての任期となりました。コロナに始まり、コロナに終わる、初めのうちは、まさかこれほど長期に渡り影響を受けるなどとは思っていませんでした。

そのような状況下であつても、縁あつて出会うことのできた多くの皆様に、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

公民館を通して出会った人、出会ったことを契機に、これからも「健康で心豊かに」をモットーに過ごしてまいりたいと思ひます。

最後に、市公連及び各公民館の益々のご発展を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

特集記事

人権尊重のまちづくり

子どもの権利条約と熊谷教育

熊谷市教育委員会

社会教育課 塚越康太郎

「子どもの権利条約」を「存じでしょうか?日本ユニセフ協会のHPには、こう示されています。」

『「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。18歳未満の児童(子ども)を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。前文と本文54条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しています。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年に批准しました。』

(引用:日本ユニセフ協会「子どもの権利条約」)

《おやつには 涼しさを呼ぶ 夏野菜》

自身や親の人間性、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。』

(引用:日本ユニセフ協会「子どもの権利条約」)

この4つの原則を基に、条約は前文と本文54条からなり、その内容は、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」と、大きく4つの権利に分けることができます。

では、子どもの生活時間の大半を占める学校で、子どもの権利条約の認知度や理解度、子どもの権利に関する教育の実施状況や課題点などはどのようになっているのでしょうか。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによって、教員向けのアンケート調査が行われ、以下のような結果となりました。

『子どもの権利の認知度』

「全く知らない」、「名前だけ知っている」教員は、合わせて3割。勤務年数の短い教員の認知度が低い傾向。

『子どもの権利への理解度』

子どもには「遊ぶ・休む権利」、「意見を聴かれる権利」があると答えた教員は、6割前後に留まる。『子どもの権利に関する教育の課題』

教員による課題認識の上位3つは、「適切な教材がない」(35.7%)、「教員が多忙で子どもの権利について授業を実施する準備ができない」(32.1%)、「子どもに関心を持つてもらおうのが難しい」(32.1%)。

《考察》教員の負担を増やすことなく、子どもが関心を持つて取り組める教材の必要性が示唆される。

(引用:公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査結果」)

こういった実態も踏まえ、熊谷市では、『「新熊谷プロジェクト」・教科横断的でオンラインティックな授業(現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近づけた学び)を』に取り組んでいます。具体的には、関連する教科や複

数の単元にまたがる学習内容を精選、統合するなど、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、児童・生徒に汎用的能力を育成します。この取組を通し、学校における働き方改革の推進、人権教育も含め、子ども達が未来の社会を「生きぬく力」の育成を実現します。

定期総会報告

5月13日、妻沼中央公民館において、令和4年度総会が行われ、事業計画・予算・役員等が承認されました。

【令和4年度役員】

- 会長 荻野俊行(秦)
- 副会長 吉野武治(久下)
- 副会長 渡辺 正(玉井)
- 副会長 新井弘一(大原)
- 各ブロック長
- 第一 河西昌美(箱田)
- 第二 前澤保雄(星宮)
- 第三 秋山宏之(大麻生)
- 第四 平井 隆(石原)
- 第五 大塚正明(中条)
- 第六 新井英一(太田)
- 監事 田代博也(本町)
- 監事 細川末廣(桜木)
- 相談役 根岸洋子(中央)

ふるさとに学ぶ

ふるさと大仏との出会い

佐谷田公民館

館長 橋本耕作

公民館事業の一端として平戸の大仏について学ぶ機会を得られました。



薬師如来座像
(平戸の大仏)

この大仏とは小学校の写生会以来の出会いということになります。

「なぜ作られたのか？」当時はそんな事も考えずにただ、古びた大きな大仏一体をスケッチブックに描いた記憶があります。

それが修復事業の動きから気になりはじめ、自分の生活している地域に改めて何故あるのか、誰が建てたのかなど気に留めることが増えました。今回、修復事業の話をお聞か

せて頂く機会に恵まれました。この場所に建てられたが何

度かの災害に遭遇しながらも地元の人たちの力で修復され現在に残っていることにも驚かされました。ふるさとの人々の願いがどんなものであったのか更に気になるところとなりました。

「なぜやどうして」という疑問の全てには修復事業でわかったことは答えられないこともわかりました。

ただ、仏像についての知識もあるわけではなく、講座では仏像についての基礎知識から聞くこともでき、どんな役割を持った仏像なのかということも理解できました。

例えば、一部分ですが次のようなことを学ぶ、新鮮な気持ちになりました。

- ・ 仏像とはお釈迦様の姿を意味する
 - ・ 仏像には種類があること
 - ・ 如来や菩薩などの見分け方
 - ・ 仏像の特徴
- そして平戸の大仏では、平戸大仏（源空寺木彫大仏坐像）薬師如来と観音菩薩の二体で江戸時代前記の作。

秘伝書による薬は馬の病氣と疝氣（腰、腹の痛む病氣）の薬は「平戸の妙薬」として有

名になり、多くの人が訪れたとのこと。



源宗寺本堂

今後の大仏の修復で新たな事がわかることも楽しみとなりました。

今回の大仏との出会いは、ふるさとには様々な文化遺産がいくつもあることを気づかせてくれる機会となりました。

「三尻」と「三ヶ尻」

三尻公民館

主事 篠田宣久

三ヶ尻のほぼ中央に三ヶ尻郵便局がある。その郵便局の道を挟んだ所に大きくひねくれた老松が聳え立ち、その木陰にぼつんと碑が建っている。

昭和二十九年、三尻村が奈良村、別府村と共に熊谷市に合併した記念碑である。時の村長幸安寺住職細見大観氏が三尻村の歴史を誌し、篆額は時の熊谷市長嶋田宗一氏により「三尻村之碑」と刻まれている。

る。この場所は合併前村役場のあった場所である。

その碑の冒頭に「三尻村は明治二十二年町村制施行により三ヶ尻村、拾六間村、新堀新田村の三村が合併して誕生したものである」と、公民館をはじめ小中学校等多くが「三尻」を冠する所以である。

また、「大宝年間（七〇一〜七〇四）には武蔵国幡羅郡霜見郷のなかの三ヶ尻郷、拾六間郷、新堀新田郷と称せられ云々」と三尻村誕生までを詳しく語る。その中三ヶ尻村となるまで少なくとも一三〇〇年の歴史を持つ三ヶ尻の深い絆も語られている。

また、地域の特筆すべきことも刻まれている。その一つ平安末期寿永二年（一一八三）三ヶ尻の地が鎌倉殿（源頼朝）により鎌倉鶴岡八幡宮の御神領となったことである。それを証す頼朝直筆の寄進状が国の重文となっている。これによると「武蔵国幡羅郡内貳尻郷」とある。三ヶ尻は古く貳尻と書かれた。また郷とあるので三ヶ尻を中心に広い地域だったのかもしれない。近年ご縁を復活し、三ヶ尻で出来た米を八幡宮に奉納する神饌田行事が行われている。

また、天正十八年（一五九〇）三ヶ尻が徳川家康の家臣三宅総右衛門康貞の采地となったこと。そして慶長九年（一六〇四）現在の愛知県田原に所替えとなるが、約二〇〇年後、田原藩家老渡辺畢山が家譜編纂を命じられ、藩祖が治めた三ヶ尻を調査に訪れた『訪貳録』を著した。畢山も「三ヶ尻を訪れた記録」として「貳」の字を使い、村名命名の由来を観音山が貳を伏せた形に似ていることを有力視している。訪貳録は当時の村の様子を絵と文章で詳しく伝える国内でも貴重な資料である。因みに桜田門から半蔵門にいたる三宅坂は田原藩主三宅侯の江戸藩邸があった事に由来する。

「三つの尻」と揶揄された思い出があるが、ふるさとを知られば知るほど有り難く、多くの人に知らせたく思う今日この頃。



大里郡三尻村役場

学級講座紹介

活気ある地域を目指して

太井公民館

主事 大島廣雄

太井公民館は、熊谷市の東部に位置し、太井地区及び佐谷田地区の一部で構成され、世帯数は210世帯です。

公民館の職員は館長・主事2名の無人公民館ですが、昨年、事務室のリフォームや机の配置・パソコン等が導入され公民館にて事務を行うことが可能となり、10月から週1回（木・半日）3交代制の在勤としました。

講座開設にあたっては、コロナ禍等により参加者が少なく苦慮していますが、館長自ら奔走し、参加者を募り定数をクリアしているのが実情です。

令和3年度の主な事業の取り組み状況を紹介します。

8月、夏休み講座として、お祝い元気教室（子供から大人を対象とした早起きラジオ体操）を予定。

9月には公民館・自治会共催による地区敬老会を、恒例

《クールシェア 涼と団らん 一石二鳥》

の地元保育園児によるお遊戯観賞をアトラクションとして企画しましたが、8月2日に緊急事態宣言が発令され、ラジオ体操及び敬老会式典は中止となり、運営協議会委員等において高齢者の安否確認を行うとともに、109名の敬老記念品（久下小学校児童のお祝いメッセージ同封）の各戸配布を行いました。

11月及び本年1月には感染防止対策のもと【令和3年度公民館まつり】出品作品としてスタンド型フラワー講座（参加者15名）及び粘土で作る干支の真講座（参加者17名）を実施。可愛い作品が出来上がり、準備は整い楽しみにしていました。中止となりました。



年度末の3月には防災意識の高揚として、「ともに考えよう大災害への対策講座【危機管理課職員】」を実施（参加者23名）。ハザードマップ

の解説では、荒川上流に千年に一度の想定外の大雨が、



久下地域の堤防が決壊した場合、太井公民館周辺一帯が洪水により水深3メートル越えになると予想されているなど、日頃から安全な避難先や災害に対する準備・心構えを持つことの大切さを学び、参加者から好評をいただきました。これからも、多くの人が公民館を目指して活動して行きたいと思えます。

生涯学習講座について

地域貢献を意識して

大幡公民館

宇佐美奈緒美

大幡公民館の生涯学習講座は、地域の方に向け募集を行う「さわやか学級」と熊谷市の方を対象に募集を行う「まなびや教室」を開催しています。

「さわやか学級」は、申込み用紙による登録を行い、本人からの退会の連絡をいただかない限り学級生として名簿に記載されます。学級生の中か

ら協力をいただける方をお願いをし”連絡員”として学級開催のお手紙を配達していただいています。現在、登録人数124名、連絡員は12名の方にお願ひしています。

学習内容としては「市政宅配講座」を活用し、市政について、健康寿命を延ばす内容及び人権学習を中心に年間6回程度、開催しています。参加申込みは行っていませんでしたが、今は人数制限の関係から電話による予約をいただいています。

「まなびや教室」は、地域の方からのご要望を伺い、希望に沿う内容を開催するようにしています。また、講師はなるべく大幡地区の方を探し、地域の先生の発掘を行うと共に、他の団体の活動がない日時に開催することや複数回の実施にすることで参加者同士のコミュニケーションを取れるようにする等、学習グループ発足を念頭においた設定をしています。

今年度は学習グループ活動の中に講座を組み込み、コロナ対策で減少してしまったメンバーを回復するべく学習グループと共同開催も行います。

平成29年度に「親子講座」を土日に開催しましたが、お子様だけの参加が多く、スタッフが対応に追われてしまう結果となりました。また、昨年度は車いすをご利用の方の参加をいただきましたが、毎回、ホール入口の段差に苦労されていました。

公民館が担える役割として「生涯学習の拠点」と言われていますが、社会が大きく変化し、多様性が求められる中、地域の皆様のお役に立てる学習内容の提案をして行くことや、決まった方だけのご利用に留めることなく、多くの年齢層の方に来館いただけることは簡単ではありませんが、存在価値を確保できるように進めることができましたら幸いです。

編集後記

市公連だより33号の発行にあたり、退任された役員の皆様お世話になりました。

新連合会会長を始め、新館長に就任された皆様にご協力いただき、各公民館の活動や取り組みを紹介することができました。コロナ禍の中33号を発行できました事に感謝申し上げます。